

米帝の対イラク核戦争を国際的反戦・反核行動で阻止しよう！

2002年8月6日 革命的共産主義者同盟

日米帝の北朝鮮・中国侵略戦争のための有事立法を廃案へ！

シオニスト＝イスラエルと米帝の侵略と闘うパレスチナ・ムスリム人民と連帯しよう！

死の苦悶にあえぐ帝国主義の第3次世界大戦を、労働者階級と被抑圧民族の団結で世界革命に転化しよう！

1. ヒロシマ・ナガサキ被爆から57年と、核戦争切迫情勢

広島・長崎への原爆投から57年の8月6、9日は、昨年9・11以来の激しい展開のなかで、かつてない重大な情勢と直面している。米帝のイラクへの核攻撃の切迫情勢、そして日米の北朝鮮・中国侵略戦争のための日帝小泉政権の有事立法攻撃である。

ブッシュ政権は、中東と全世界における米帝の支配を再確立するためにイラク攻撃を戦略的に決定し、数カ月以内に対イラクの核兵器を使った先制攻撃を開始するとくり返し宣言している。また、福田官房長官は日帝の核武装を公言している。

米帝と日帝は、「ヒロシマ・ナガサキをくり返すな！」「核兵器を廃絶せよ」という巨大な人民の半世紀にわたる要求と声を傲慢にもふみにじっている。彼らは、「ヒロシマ・ナガサキ」を、何万倍もの規模でくり返そうとしているのだ。世界は今、核戦争の前夜にある。

一方、中東において、「ヒロシマ・ナガサキ」にも等しい、許し難い残虐行為が、91年の湾岸戦争におけるイラクへの劣化ウラン弾攻撃として、また、今ガザとヨルダン西岸で、米帝の支持を受けたイスラエルのシオニストたちによってパレスチナ人民に対しておこなわれている。

2. ヒロシマ・ナガサキの教訓とは

人類史上初めての原爆被爆者となったわれわれ日本人民は、当時日帝の強制連行によって日本の地で被爆した数多くの朝鮮人・中国人の存在を自己批判をもって受け止め、この重大な事件の教訓にもとづき、全世界の人民にたいして「ヒロシマ・ナガサキをくり返すな」のアピールを発した。

現実に1945年8月に起こったことは何だったのか。米軍機から落とされた二個の原子爆弾は、ほんの10秒間で二つの都市を壊滅させ、広島で14万人、長崎で7万人（朝鮮人、中国人を含む）を被爆現場で殺した。その後現在にいたるまでのあいだに、約32万人が被爆がもとで死に、数十万の人々が原爆病で苦しんでいる。

3. 「9・11」の開いた新時代

「9・11」は、21世紀の階級闘争と民族解放闘争に新たな時代を切り開いた。この歴史的な反米ゲリラ戦争は、全世界のムスリム人民のながきにわたって蓄積された怒りが、民族解放闘争の特殊的・極限的な形態で爆発したものである。

「9・11」は、パレスチナ人民のインテリゲンチアを受けついで、歴史的諸関係を根底から転覆しようとするものであった。帝国主義国の労働者階級にとって9・11は、闘う被抑圧民族人民、とりわけムスリム人民との国際主義的連帯という切実な課題を提起している。

4. 帝国主義の核戦争攻撃に対して、労働者人民の国際的団結を

帝国主義国におけるプロレタリアートの闘いと新植民地主義体制諸国における民族解放闘争を、反帝・反スターリン主義プロレタリア世界革命勝利のもとに真に統一する新たな革命運動を創造すべき時がきた。

日本においては、有事立法反対闘争が陸・海・空・港湾労組などを先頭に、広範な労働者人民を結集して形成されつつある。また、第2次世界戦争において日本で唯一地上戦が闘われ、県民の三分の一が殺された沖縄では、有事立法反対の声が巻き起こっている。われわれは、帝国主義のイラク、北朝鮮、中国ほか全世界の人民に対する核戦争攻撃を、絶対に許すわけにはいかない。

8・6、8・9集会に結集しよう！

『前進』を読もう。購読料6カ月8400円 送料1500円(開封)/3000円(密封)

お申し込みは、〒132-0025 江戸川区松江 1-12-7 前進社へ

『前進』ホームページ <http://www.zenshin.org/>

